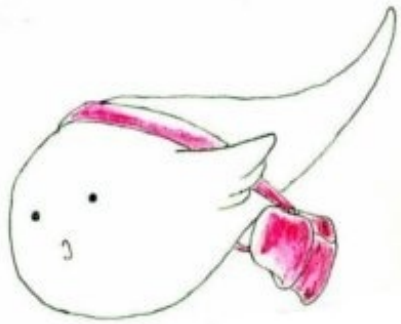
なないろのネコと
かぜのゆうびんやさん

あるひ、なないろのネコが
おさんぽをしていると
かぜのゆうびんやさんが
ふわふわ　ふわふわ　やってきました。



「こんにちは、
かぜのゆうびんやさん。
どこへ　いくの？」

「にしのもりにすむ、
まじょのばあさんのところさ。
ばあさんは　もうすぐ２００さい。
みんなからの〝おめでとう〟を　とどけるんだよ」

「それから・・」
かぜのゆうびんやさんは　さらに　いいました。

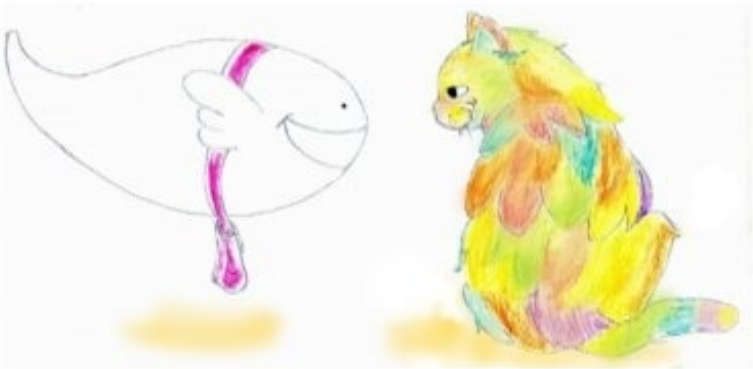
「みなみの
しまにすむ、
むすめのところへ
こいびとからのキスをとどけて、

それから　それから
ひがしのくにすむ、
もりをわすれたおおさまには
もりたちのこえを　とどけなくちゃ」

「おおいそがしだね」と なないろのネコは　いいました。
「せかいには たくさんのきもちが あふれているからね」

なないろのネコは　うれしくなって
「ぼくも　たびをしながら　だれかにであいたいな」
とおもいました。すると、かぜのゆうびんやさんが、
「それなら　ぼくのくにまで　たびをしてごらん」
といって、みちをおしえてくれました。

そこで　なないろのネコは
かぜのゆうびんやさんのくにへ
あるいて　いくことにしました。



てこてこ　てこてこ

なないろのネコは　あるきます。

みちのとちゅう、
いちりんの　たんぽぽさんに　あいました。

「こんにちは、たんぽぽさん」
「こんにちは、ネコさん。どこへいくの？」

「かぜのゆうびんやさんのくにだよ。
たんぽぽさんも　いっしょにいかない？」

「いいや、わたしは　ここから
うごくことができないの。
かぜのいたずらでね、
うまれたときから　ずっと
ひとりでここにいるんだよ」

と たんぽぽさんは　いいました。

「ひとりでさみしくない？」と　なないろのネコがきくと
たんぽぽさんは　くびをふって　いいました。

「そうでもないよ。
　まいにち　むしたちが　あいにきてくれるから。
　ネコさんも　またあいにきてよ」

「うん、きっとまたあいにくるよ」と
なないろのネコは　いいました。

「じゃあ、またね」
「またね」

たんぽぽさんとわかれた　なないろのネコは
また　てこてこ　てこてこ　あるきはじめました。

みちのとちゅう、
いっぴきの　あおむしさんに　あいました。

「こんにちは、あおむしさん。ぼくといっしょに
かぜのゆうびんやさんのくにへ　いかない？」

となないろのネコは　ききました。
「いいや、ぼくはここで　ちょうちょうになるんだ」
「へぇ、すごい！」
「ぼくが　ちょうちょうになるころ、またあいにきてよ」

「うん。だけど、ちょうちょうさんになっても
あおむしさんのこと、わかるかな」

「だいじょうぶ。ぼくはぼくだから」
そういって　あおむしさんは　にっこりとほほえみました。

「じゃあ、またね」「うん、またね」

あおむしさんとわかれた　なないろのネコは
また　てこてこ　てこてこ　あるきはじめました。

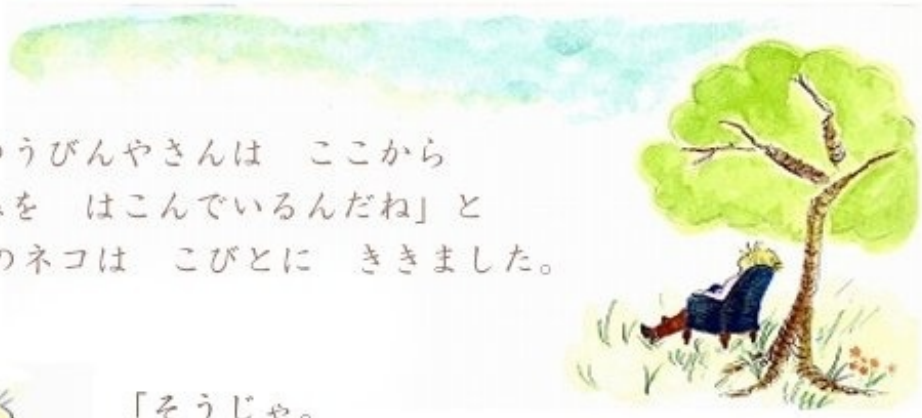
てこてこ　てこてこ

ついに　なないろのネコは　おおきなおかのある、
かぜのゆうびんやさんのくにへ　やってきました。

そらにはかぜが　ぴゅーぴゅー　ふいています。

なないろのネコは
おかのてっぺんにたつ　とうへと　むかいました。

とうのなかは　おてがみのやま。
こびとたちが　せっせ　せっせと
はいたつのじゅんびを　しています。



「かぜのゆうびんやさんは　ここから
おてがみを　はこんでいるんだね」と
なないろのネコは　こびとに　ききました。

「そうじゃ。
ごらん、このくにではみんな、
てがみをうけとるために　いつも
そとにいて　かぜにふかれとる。
おまえさんも　かぜはすきじゃろ？」

「うん、ぼくも　かぜはだいすきだ。
そうだ、ぼくのきもちも
かぜのゆうびんやさんに
とどけてもらおう」

なないろのネコは　さっそく　てがみをかき、
とうのてっぺんへ　のぼりました。

「ぷわぁ～」

とうのてっぺんからは
かぜのゆうびんやさんが
つぎつぎと　とびだしていきます。

「ゆうびんやさん
いってらっしゃーい」
なないろのネコのてがみをもって、
かぜのゆうびんやさんは　おかをこえ、
あおいそらのなかを　とんでいきました。
さて、なないろのネコのおてがみは
だれにとどいたのでしょうか。